

▼第2次栃木市観光基本計画 進捗確認表

基本目標2 ネットワーク・観光基盤整備		実施スケジュール								内部評価	
		進捗								内容（取組状況・課題）	コメント
基本施策		単位施策	具体的な方策	R5	R6	R7	R8	R9			
1	様々な観光モデルルートの設定	テーマ性のある周遊観光モデルルートづくり	テーマ性のあるモデルルート作成						一部着手	いちご・ぶどう等の農産物をテーマとした「とちぎ渡良瀬いちご・フルーツ街道スタンプラリー」や、ふれあいバスをテーマとした「ふれあいバスで行く とちぎの小さな旅」を関係課や近隣自治体と連携して作成した。 作成したモデルルートの利活用を増やすためにどのようにPRするかを検討する必要がある。	・スタンプラリーやバス利用者でのモデルルート 是非実施できる方向でお願いします ・SNSや地元メディアを活用した広報活動と、インセンティブを取り入れた参加促進が効果的かと考えます。また、地元住民や観光業者との連携も重要です。 ・栃木市ヒストリーブックと連携・利活用を通してルートの検討を図る。 ・さまざまなモデルルートがあるのはいいが、どれもあまり知られていないように感じる。この施策に限らず、実際にどの程度の利活用者がいるのか数値化できるものは数値で示し、効果も検証した方がいいのではないかと。
			モデルルートと連動したイベント等の開催						未着手	栃木市散策ガイドアプリ「蔵ミューゼ」を令和7年度に新たにスタンプラリーを付ける予定であることから、モデルルートの周遊を促すスタンプラリー等を開催していく。	・スタンプラリーは結構 ・デジタルスタンプの活用が検討できると思います。 ・アプリのPRを引き続き実施してほしい。
2	地域をつなぐ観光ネットワークの形成	二次交通の充実化	交通事業者と連携した観光交通網の整備の検討						一部着手	桐生市の低速電動コミュニティバス等の先進事例を参考に、公共交通機関の観光利用を検討する。また、すでに導入されているシェアサイクル・レンタサイクル事業について、観光客の利用促進を図る。	・2次交通の問題を解決する低速電動コミュニティバスの観光利用には大きな期待を持ちます。シェアサイクルは利用データを分析し、更なるポートの増設など検討が必要と考えます。 ・交通の拠点となるバスステーション等のハブ化及びレンタサイクルのワンウェイ等ハブ機能の充実を図る。 ・ヘルメットについてお客さまより聞かれることがあります。栃木市は義務か努力義務かと事故が起きた時のことを考える時期かと思っています。
			サイクリングモデルルート作成						着手	市で作成した「栃木市サイクリングマップ」や、県・近隣自治体と連携して作成した、県南地域の8市町を通過するサイクリングモデルルートである「ワタラセ8」の更なる内容の充実を図る。また、複数の自治体を横断するルートの利用を促進するために、近隣自治体との連携に努める。	・サイクルツーリズムはインバウンドの誘客にも大きな効果があると考えます。栃木市は宇都宮ブリッツェンとの協定もあり、連携を図ることで海外へのプロモーションも可能かと思っています。
		観光施設及び観光資源間の連携	観光施設間の連携強化						着手	栃木地域内の資料館等が連携し施設間で周遊できるよう栃木市記念館等共通券を発行した。 みかも山東エリアの観光施設や飲食店間で連携し、みかも山東エリア連絡会議を開催し、合同イベントの企画や相互にパンフレットの提供を行った。新たな施設間連携の強化を図っていく必要がある。	・SNSやデジタルツールを活用したPR活動を強化し、観光地の魅力を広める取り組みが必要と考えます。 ・DMOタイプの検討と合せて受益者を含めた検討を図る。 ・共通券の発行は良い取り組み。
3	旅行者、交通事業者との連携	旅行企画の商品の充実と新規開発	旅行商品開発の推進						一部着手	観光資源をPRするために市内外の観光事業者等を対象にモニターツアーを開催する。 また、栃木市観光協会が旅行業登録を取得することから、人気の観光施設を有する民間事業者や飲食店と連携し、旅行商品の積極的な開発を進める。	・モニターツアー開催は良いですね ・「ソース×リョーモー」企画 栃木市のソースグルメを絡めたもので検討できると思います。 ・誘客のターゲットを明確にした施策やプロモーション活動、それに準じた観光事業者との連携が必要と考えます。
		広告媒体の活用	交通関連施設等での観光PR						着手	「令和6年とちぎ秋まつり」や「SL×DLとちぎ鉄道フェスティバル」では、駅の掲示板にポスターを貼り周知した。 令和7年1月から運行開始した「Berry ² Happy Train」ではラッピング広告により観光PRをした。	・当社としても東武鉄道と連携した事業は今後とも積極的に推進してまいります。
		鉄道会社や高速道路運営会社との連携	主要交通施設でのキャンペーンの実施						着手	令和6年度に3回大宮駅で観光PRイベントに出展した。 また、北千住駅や川越駅において果実狩りやイベントのPRを行った。今後も観光PRに有効な場所で観光キャンペーンを実施し、本市の魅力を発信する。 PR活動の効果測定が今後の課題である。	・市外・県外の人々にとちぎを知ってもらうためのPR活動良い ・SNSやデジタルメディアを活用したオンラインキャンペーンの強化や、独自色の強い地元商業施設との連携を進めることで、観光誘致の効果がさらに高まると考えられます。 ・PRの効果が気になる。
4	観光案内所等の整備	観光案内所の充実・機能強化	おすすめプラン・モデルルートの作成						一部着手	栃木市観光協会や観光交流館「蔵なび」、「山車会館」においてモデルルートを紹介している。 多種多様なニーズに合わせたモデルルートの作成が今後の課題である。	・モデルコースが優等生すぎる。歴史や文化を重視したコースは定番として残しながら、マニアックな分野を増設。地元民しか行かないディープな場所を盛り込むのも商品価値があると思う。 ・モデルルートの作成に伴う回遊性の向上は観光消費額の向上にも寄与すると考えます。更なる拡充を期待。 ・(歩き、ふれあいバス、シェアサイクル)交通など手段によってルートの紹介を変えているのでしょうか？ ・栃木市ヒストリーブックと連携・利活用を通してルートの検討を図る。 ・とちぎ山車会館内のタッチパネルの情報が古くなっている部分がある。もう少したくさん情報が入れられると良いとも思います。
		観光サービスポイントの設置	観光サービスポイント設置						一部着手	イベントチラシやパンフレット等をコンビニエンスストア・スーパーマーケット・大型商業施設等に設置し、観光情報の発信を行なっている。	・紙媒体も必要なPR手段だが大きさ等検討が必要。また、QRコードを印刷に取込む事も情報発信に繋がる。 ・チラシやパンフレットの目立つデザインやデジタル連携を進めることで、さらに効果的な情報発信ができると考えます。また、定期的な更新やフィードバックの活用も次回の取り組みに向けた改善に繋がります。
5	快適な空間形成の促進	駐車場やトイレ等の観光利便施設の充実	観光客の利便性向上のための施設整備						一部着手	嘉右衛門町伝建地区に無料駐車場を整備を行った。 各地域の観光施設駐車場(あじさい坂駐車場)の白線及びトイレ(かかし里等)の修繕を行った。計画的に修繕をする必要がある。	・トイレの破損等、被害が起きている。観光客にとって駐車場・トイレは重要なポイントになるので修繕と管理を。 ・伝建地区に駐車場整備できたのは観光客のためにも良かった。 ・アクセス手段による違いはあるがアクセス道路等の整備が必要。国庁跡の文化的整備を図る。
		観光施設等のバリアフリー・ユニバーサルデザインの促進	観光施設のバリアフリー・ユニバーサルデザイン化促進						一部着手	コエド市場に車いすを設置し、また、栃木駅及び新栃木駅周辺地域のバリアフリーマップを更新するとともに、栃木市観光協会のHPに掲載し周知を図った。 施設を改修する際にバリアフリー・ユニバーサルデザインを意識した改修をする必要がある。	・身体に不自由を感じる方々をはじめ、全ての観光客に対して安心して観光を楽しんでもらえる環境が提供されてることは栃木市の観光業の発展の重要な要素と言えると思います。
		安全安心な観光のための環境整備	安心安全マニュアルの作成						一部着手	山車会館やコエド市場にて指定管理業者による緊急対応マニュアルの作成及び災害時のハザードマップによる避難誘導を促せるよう観光安心安全マニュアルを作成を検討する。	
6	移動環境の整備・充実	分かりやすい観光案内標識の整備	観光案内標識の充実						着手	英語及び中国語に対応している栃木市散策ガイドアプリ「蔵ミューゼ」の内容充実及びPRに努めるとともに、既存の観光案内看板の更新の際に多言語化やピクトグラムやイラストを活用したデザインの使用を検討する。	・多言語は必要 ・インバウンド市場の取り込みは観光における重要な課題のひとつです。着実な進捗を期待します。
		「ふれあいバス」の観光への利活用	「ふれあいバス」を活用したおすすめプラン・モデルルートの作成						一部着手	「ふれあいバスで行く とちぎの小さな旅」として、すでに2つのモデルコースが作成されており、関係課と連携してモデルコースの追加及び内容の更新に努める。	・すでにある資源を有効活用し磨き上げることは重要な取り組みだと考えます。 ・FMくらで職員がふれあいバスを使って楽しんだという話をしていた回があり良かった。今後もモデルコースの実例を紹介しても良さそうです。 ・バスステーションのハブ化により柔軟性の高いルート変更を図る。